

加賀電子株式会社 個人投資家向け会社説明資料

加賀電子株式会社
2021年3月1日

目次

● 加賀電子について

会社概要・フィロソフィー・事業領域・沿革	P-	3～ 6
加賀電子グループの強み	P-	7～ 9

● 加賀電子の成長シナリオ

中期経営計画 2021	P-	11～15
-------------	----	-------

● 加賀電子グループのEMS事業について

EMS事業の概要と成長戦略	P-	17～27
---------------	----	-------

● 企業買収の進捗状況

富士通エレクトロニクス・十和田パイオニア・ エクセル・旭東電気の買収について	P-	29～36
業界内ポジショニング	P-	37

● 加賀電子のサステナビリティ

サステナビリティへの取り組み	P-	39～40
CSR活動	P-	41

● 2021年3月期業績

第3四半期決算概要	P-	43～52
通期業績予想	P-	53
株主還元	P-	54
新中期経営計画新セグメント	P-	55～56

● 参考データ

過去5年の業績	P-	57
---------	----	----

会社プロフィール

会社概要

- 会社名 加賀電子株式会社
(英文 : KAGA ELECTRONICS CO., LTD.)
- 代表者 代表取締役会長 塚本 勲
代表取締役社長 門 良一
- 本社所在地 東京都千代田区神田松永町20番地
- 設立 1968年(昭和43年)9月12日
- 資本金 121億33百万円
- 上場市場 東証1部(証券コード:8154)
- 連結売上高 4,436億円(2020年3月期)
- グループ会社数 68社(2020年12月31日現在)
- 連結従業員数 7,707名(2020年12月31日現在)



創業者・
代表取締役会長
塚本 勲

代表取締役社長
門 良一

企業理念

すべてはお客様のために

ビジネスモデル

独立系、ワンストップサービスの エレクトロニクス総合商社

行動指針

F.Y.T.

Flexibility = 柔軟な対応

Young = 常に若々しく

Try = 果敢に挑戦

3G

General = あらゆるものを

Global = 全世界で

Group = 総合力を活かして

加賀イズム

会社設立以来、創業者や諸先輩の経験に裏打ちされた宝とも言うべき数多くの『語録』。日々の**競争を勝ち抜いていくための我々の行動の『拠り所』**として、将来にわたって継承。

加賀イズムの3本柱	基本精神
1. 経営マインド 「全員が経営者」であるという意識をもった行動	1-1. 壮大な夢と強い想いをもちた経営者たれ
	1-2. ハングリー精神をもってチャレンジし続ける
	1-3. 強い想いをもち、まずは行動
2. 営業マインド 「商社マン・ビジネスマン」としてもつべき意識と行動	2-1. TAXAN努力し、TAXAN儲けてTAXAN幸せになる
	2-2. 人脈は無形の財産
	2-3. 常に、旺盛な好奇心を持ち続ける
3. 社会人としての心構え 社会人として仕事を進める上での意識と行動	3-1. 自己研鑽
	3-2. 信賞必罰
	3-3. 公明正大

沿革

《1968年》

資本金100万円で
「加賀電子株式会社」設立
(東京都千代田区外神田)



《1981年 海外進出》

TAXAN (USA)
アメリカ合衆国に設立



《1992年 EMS事業を開始》

KAGA (H.K.)
香港に設立



《2014年》

創業の地、東京・秋葉原に
新本社ビル建設



コダック社製品の
国内総販売代理店権獲得

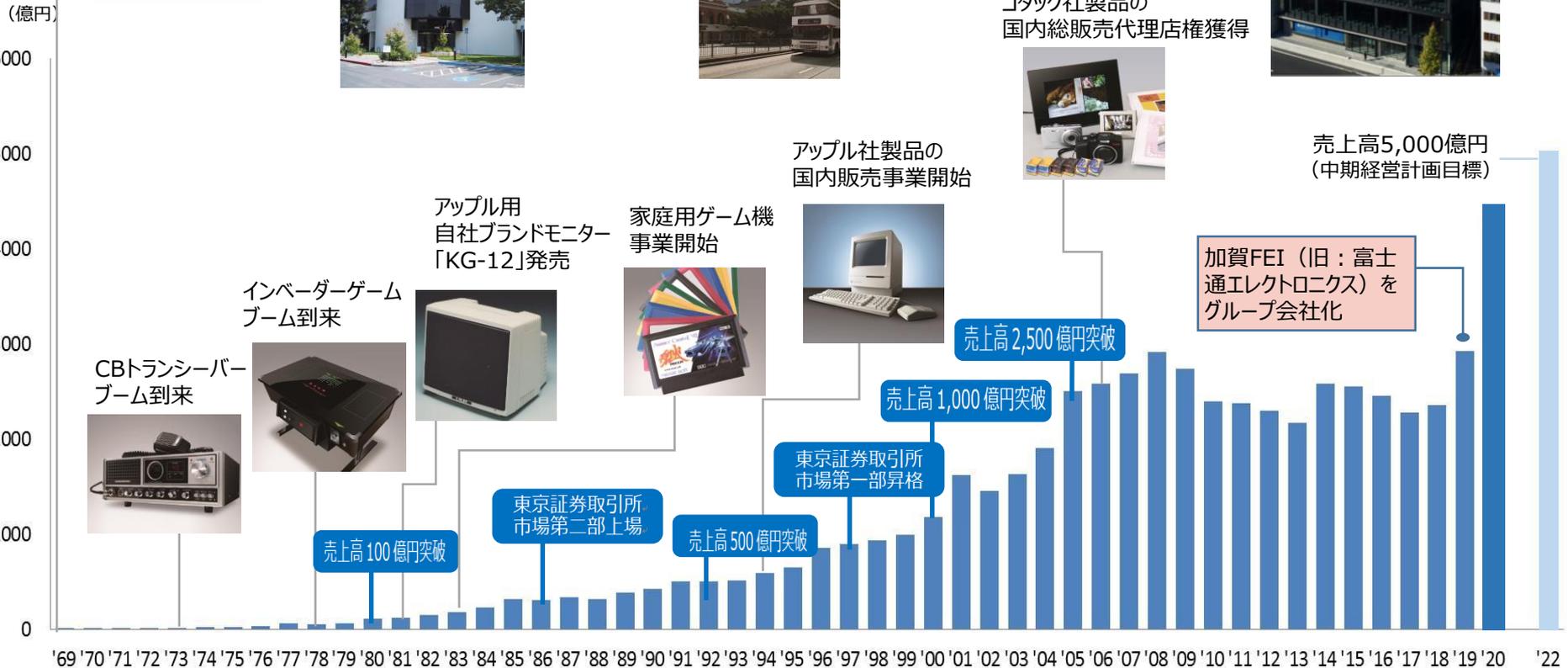


アップル社製品の
国内販売事業開始



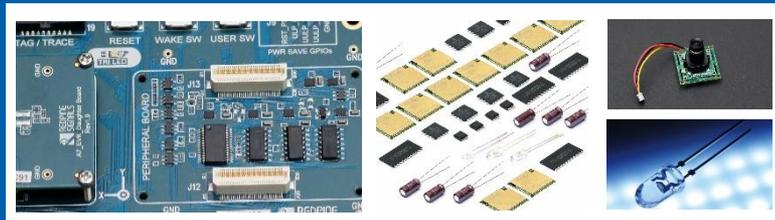
売上高5,000億円
(中期経営計画目標)

加賀FEI (旧：富士
通エレクトロニクス) を
グループ会社化



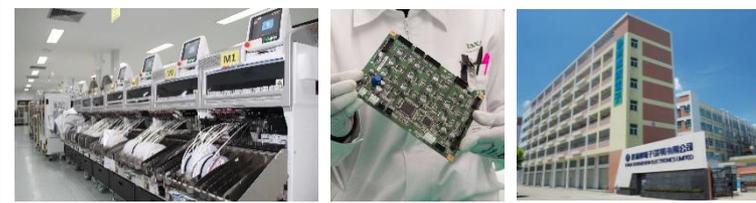
加賀電子グループの強み-①：総合力（事業領域）

電子部品・半導体ビジネス



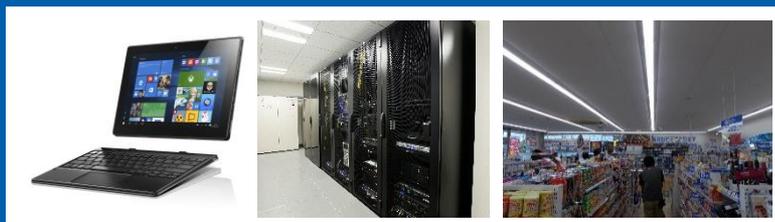
国内外のお客様へ、一般電子部品・半導体等の販売代理店活動

EMSビジネス



完成品から半完成品まで設計開発製造のトータルサポートを実施

情報機器ビジネス



PCや周辺機器を国内外の流通チャンネルに供給、及びネットワークソリューション分野への対応

ニュービジネス



アミューズメントに関する製品・ソフト開発及び製造販売およびゴルフ用品販売事業ほか

加賀電子グループの強み-②：グローバル

10ヶ国/22拠点に展開するEMSグローバル生産体制で、顧客ニーズに迅速目つ柔軟に対応

- チェコに実装設備を設置、欧州での受注開始
- トルコにも進出、欧州事業を強化
- 中国ローカル企業との取引拡大
- 欧米企業との取引拡大
- 中国内販売を行う日系企業との取引拡大

- EMS拡大
- 部品キットング拡販
- 新規顧客開拓

- 中国生産からメキシコ生産へシフト
- シカゴにセールスオフィスを開設し、営業活動を強化

欧州

中国・アジア

日本

米州

アセアン

- 日系顧客へのさらなる深掘り
- 中国からの生産移管に対応

● 営業拠点 ● 製造拠点

加賀電子グループの強み-③ : ワンストップ

製造受託に留まらず、販売・販売後サポートまでワンストップで対応できるグループ総合力

企画・開発・設計



部品調達・キitting



EMS・製造受託



販売・ディストリビューション



サポート・アフターサービス



加賀電子

加賀テクノサービス

加賀デバイス

加賀マイクロソリューション

加賀ソルネット

サンコーエンジニアリング

加賀アミューズメント

イー・ディーデバイス

加賀アミューズメント

デジタル・メディア・ラボ

加賀テック

加賀スポーツ

エクセル

加賀EMS十和田 / 旭東電気

加賀FEI (旧 : 富士通エレクトロニクス)

KAGA USA

加賀電子 (大連)
KAGA (台湾)
KAGA (KOREA)

TAXAN MEXICO

KAGA COMP(MALAYSIA)

加賀電子 (上海) / KAGA (H.K.)

KAGA (THAILAND)/KAGA(VIETNAM)

KAGA (SINGAPORE)

KAGA (INDIA)

KD TEC (チェコ) 、KD TEC Turkey (トルコ)

中期経営計画 2021
(2019 - 2021) アウトライン
(2018年11月6日公表)

「利益重視の経営」の確立・定着を通して



“我が国業界No.1”の企業グループを形成し



更には、
“グローバル競争に勝ち残る企業”を目指す。

「中期経営計画 2021 (2019 - 2021)」 の位置付け

自立的成長
+
更なる
M&Aの挑戦

加賀電子
グループ
+
加賀EFI
(旧: 富士通
エレクトロニクス)

“グローバル競争に勝ち残る企業”を目指す

1兆円

5,000億円

“我が国業界No.1企業”の実現へ



商社ビジネスの拡大を
EMSBizネスの成長につなげる



EMSBizネスの
更なる拡充

海外Bizネスの
強化・拡大



重点課題

1 収益基盤の 強化

時流を先読みする当社グループのDNAを活かし、**高い成長性及び収益性が見込める市場に注力**、収益基盤の強化を図る

- ・成長分野への取組み強化：「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」
- ・EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大

2 経営基盤の 安定化

加賀FEI（旧：富士通エレクトロニクス）のグループ会社化後の**効率性・財務健全性の早期改善**に向けて経営基盤の安定化を図る

- ・グループ横断的なコスト削減施策の継続
- ・組織体制整備によるグループ経営の効率化推進
- ・コーポレートガバナンスの強化、次代を担う人財の育成

3 新規事業の 創出

外的環境変化への耐性強化のため、自社リソース及びM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図る

- ・「社会課題（保育、福祉、介護、等）ビジネス」、「素材ビジネス」への取り組み
- ・ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進
- ・M&Aの積極的な活用

「中期経営計画 2021（2019 - 2021）」 経営目標

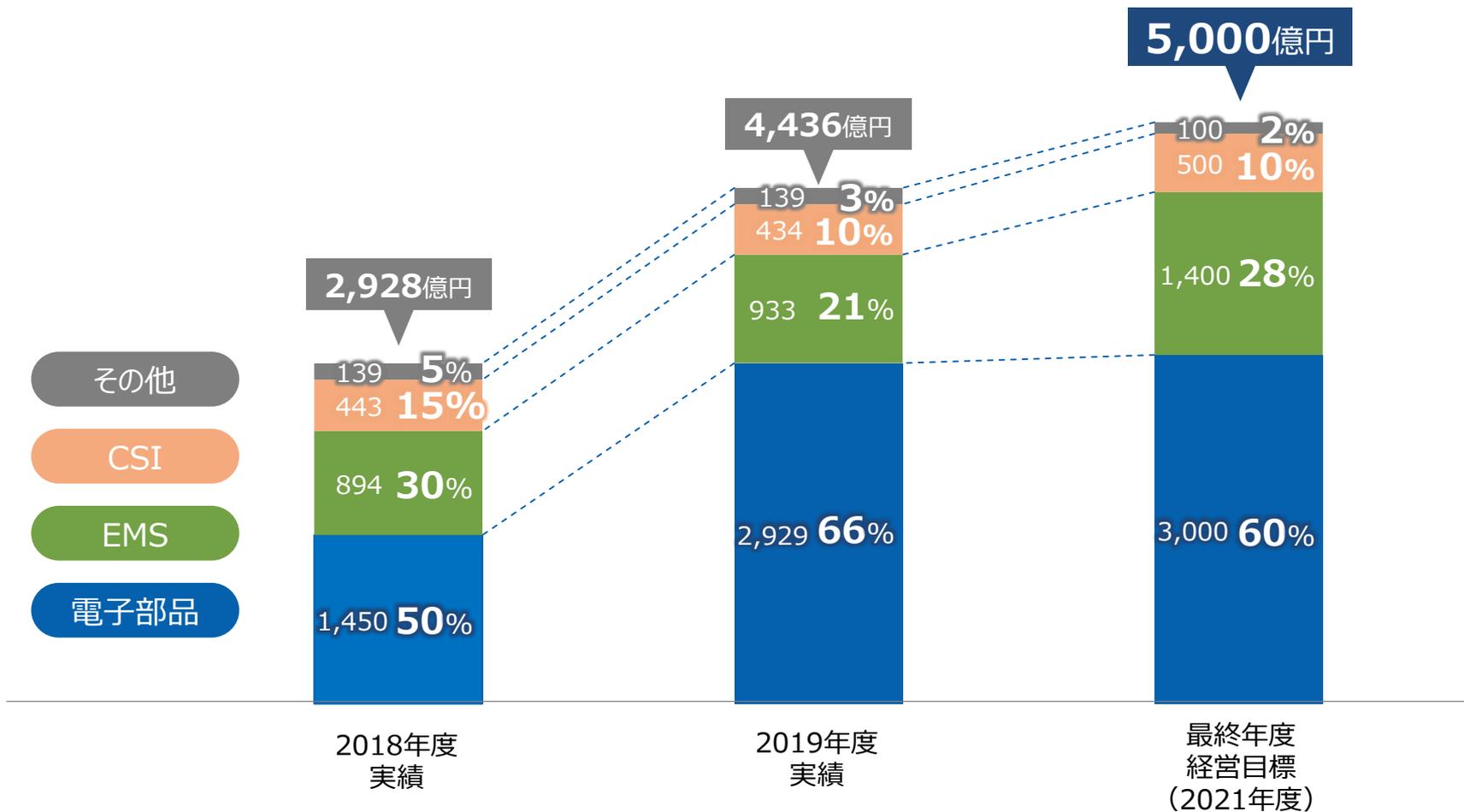
	2018年度 実績	2019年度 実績	2021年度 経営目標
売上高	2,928億円	4,436億円	5,000億円
営業利益	76億円	100億円	130億円
ROE	10.9%	7.6%	8.0%以上

為替レート

・ 計画の前提： US\$1.00 = ¥110

新中計では従来の開示セグメントを見直し、以下の4分類への組替えを実施。

売上高構成比のイメージ



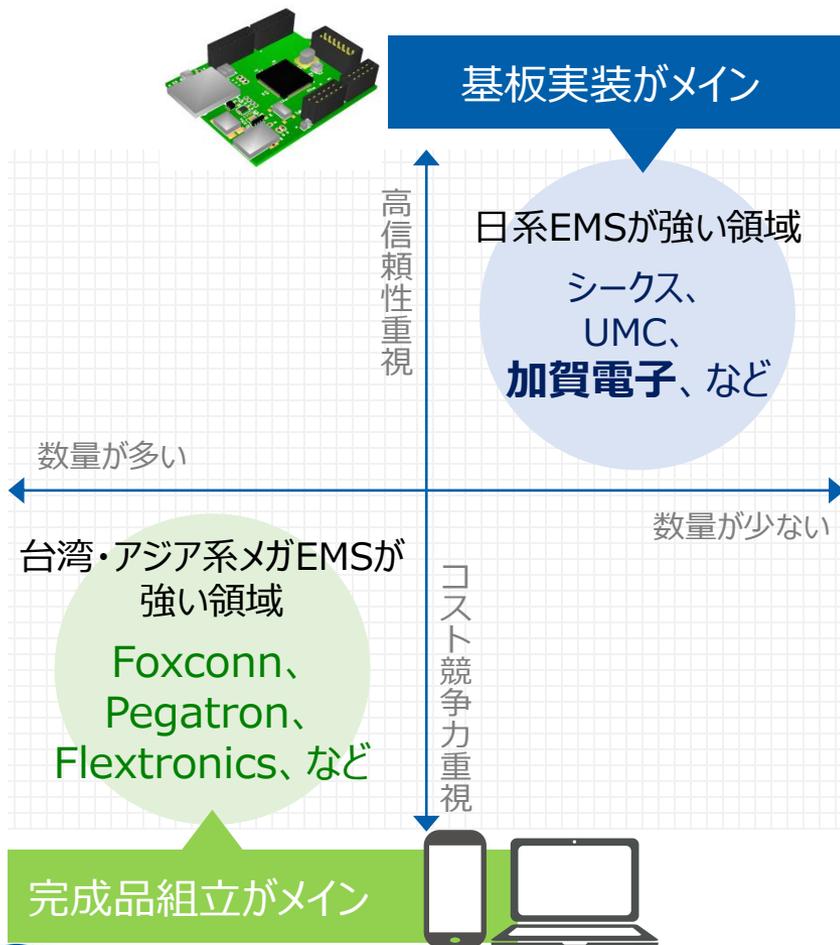
加賀電子グループの EMS事業について

EMS事業の概要と成長戦略

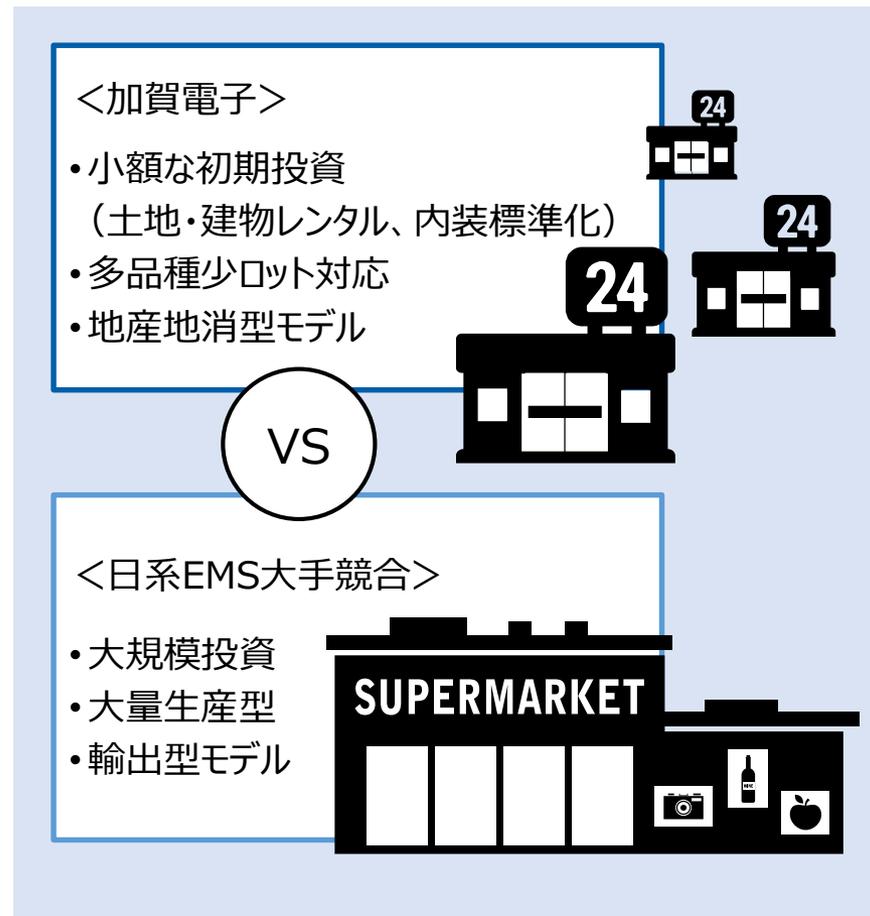
加賀電子グループEMSの強み- : コンビニ型EMS

加賀電子はお客様にとって便利で価値ある「コンビニ型EMS」をグローバルに展開

日系EMS vs 台湾・アジア系EMS



コンビニ型EMS vs GMS型EMS



主要生産拠点のご紹介：中国

港加賀電子（深圳）有限公司

設立 1999年

従業員数 950名

生産品目 車載関連製品、産業機器、事務機器、
アミューズメント機器、通信機器

加賀沢山電子（蘇州）有限公司

設立 2009年

従業員数 360名

生産品目 車載関連製品、医療機器、産業機器、
住設関連製品、電子楽器、通信機器



<深圳工場>



<蘇州第1工場（輸出用）>

主要生産拠点のご紹介：アセアン

KAGA ELECTRONICS (THAILAND)

設立 2002年

従業員数 690名

生産品目 車載関連製品、事務機器、空調機器、産業機器

KAGA ELECTRONICS (VIETNAM)

設立 2017年

従業員数 120名

生産品目 車載関連製品、空調機器、事務機器、医療機器



<タイ第1工場>



<ベトナム工場>

主要生産拠点のご紹介：欧州・米州

KD TEC

設立 2009年

従業員数 120名

生産品目 空調機器



<チエコ工場>

TAXAN MEXICO

設立 2017年

従業員数 160名

生産品目 車載関連製品、事務機器、産業機器



<メキシコ工場>

主な生産品目：各種基板

事務機器用基板

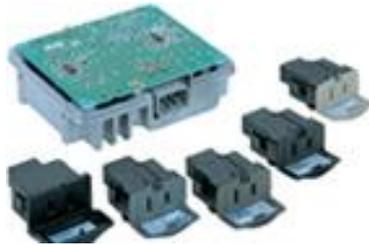


通信機器用Lサイズ基板



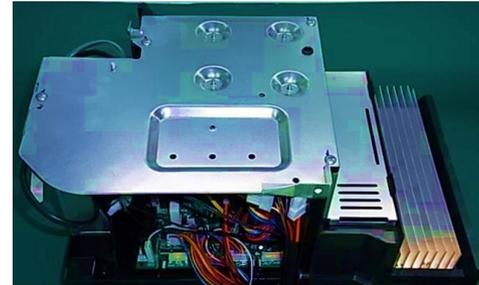
主な生産品目：各種ユニット

ACインバータユニット



車載用照明ユニット

空調機器関連ユニット



主な生產品目：各種完成品

車載関連製品



<カーナビゲーション>

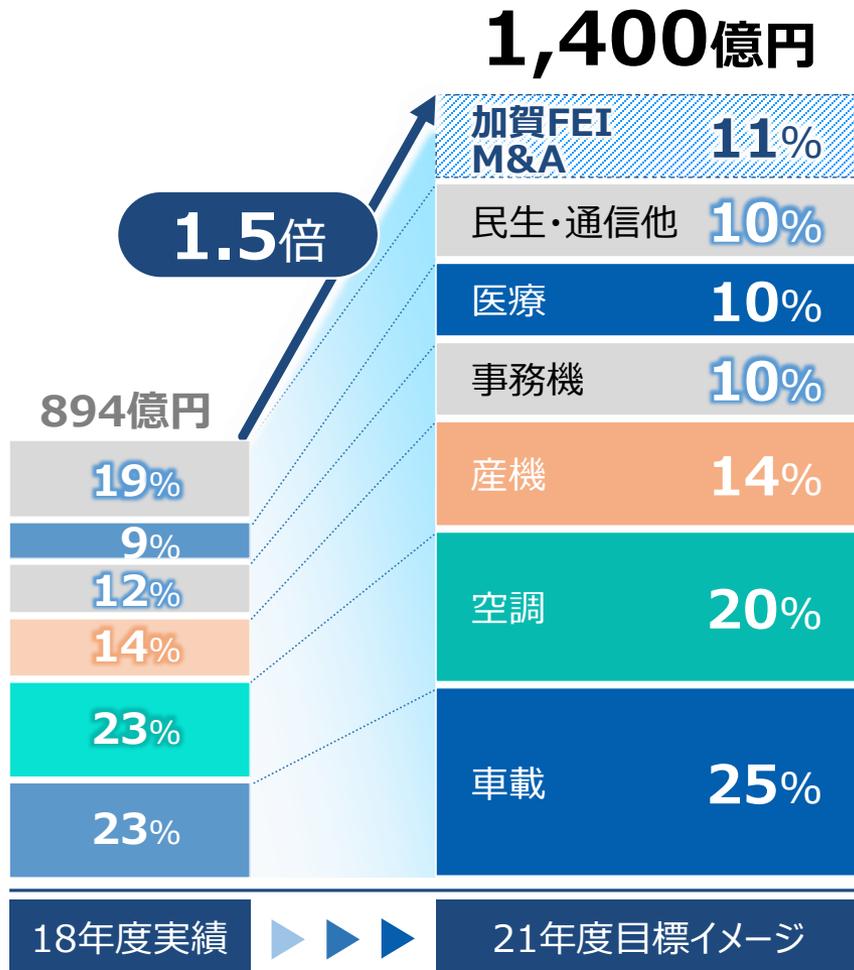
医療関連機器



<薬保管キャビネット>

EMSビジネスの成長シナリオ

「車載」「産業機械」「空調」医療・ヘルスケア」を成長ドライバーに、18年度比1.5倍の事業規模へと飛躍的な成長を目指す



ポイント



- 中国・アセアン・欧州での既存生産能力に加え、新設のベトナム・メキシコ・トルコ・インド各拠点の本格寄与により、「車載」「産機」「空調」「医療」の成長分野で事業拡大。
- 加賀FEI（旧：富士通エレクトロニクス）が持つ有力顧客に対して、「キーデバイス+EMS」のアプローチを展開する。
- EMSビジネスの更なる規模拡大を目指し、国内外で新たなM&A機会に挑戦する。

EMSビジネス成長のための重要テーマ

富士通エレクトロニクスが持つ欧米有力顧客のEMSシフトに併行して、「ボリューム」「クオリティ」「コスト」を強化し、事業競争力を総合的に高める。



生産能力の増強

- 米中貿易問題長期化に伴う“中国からの生産移管”の動き、為替変動や人件費高騰を回避する製造業の“国内生産回帰”に動きに機動的に対応する。



エンジニアリング力の強化

- 汎用設備に依存せず、自社内エンジニアリング力を活用して、“コンビニ型EMS”に最適コストの生産設備を自社開発することにより、コスト競争力を高める。



ものづくり力の強化

- 十和田パイオニアの買収により、エレクトロニクス専門メーカーとして長年培ってきた同社の「ものづくり」のノウハウ、優秀な生産系人財と生産設備、治具設計、品質保証体系などリソースを共有することで、EMSビジネスの品質レベルの一層の向上、競合他社との競争優位性を強化する。
- 十和田パイオニア、福島新工場を“マザー工場”と位置付け、海外拠点との連携、全体最適化を推し進め、経営体質の強化と事業効率の向上を図る。

具体的なアクション

加賀EMS十和田



事業内容

車載用電子機器、
医療機器の基板実
装および完成品組立
て

買収時期

2019年10月

タイ第2工場



事業内容

複合機、プリンタ、車
載関連製品の基板
実装

稼働時期

2019年12月

福島新工場



事業内容

通信機器、PCおよび
PC周辺機器の製造、
修理、リユース・リサイ
クル

稼働時期

2019年10月

生産設備の自社開発



事業内容

基板実装に関わる生
産設備の開発・製
造・外販

営業開始時期

2019年12月

	加賀電子	A社	B社	C社
	10カ国 22拠点	8カ国 16拠点	5カ国 11拠点	3カ国 3拠点
日本	●×8	●	●×6	
中国				
深圳	●			
東莞		●	●×2	●
蘇州	●×2			
湖北	●×2	●		
上海		●×3		
広州		●		
アセアン・アジア				
タイ	●×2	●×2	●	
インドネシア	●	●×2		
マレーシア	●			
ベトナム	●		●	●
インド	●			
フィリピン		●×2		
韓国				●
米州				
メキシコ	●	●	●	
欧州				
チェコ	●			
トルコ	●			
スロバキア		●		
ハンガリー		●		

※出所：各社ホームページの情報をもとに当社にて作成

企業買収の進捗状況

富士通エレクトロニクスの買収について

被買収会社の概要	<table><tbody><tr><td data-bbox="407 187 629 329">名称</td><td data-bbox="629 187 1887 329">・ 富士通エレクトロニクス株式会社 ※2020年12月、「加賀FEI株式会社」に商号変更</td></tr><tr><td data-bbox="407 329 629 479">代表者</td><td data-bbox="629 329 1887 479">・ 代表取締役会長 塚本 勲（当社 代表取締役会長） ・ 代表取締役社長 荻原 淳二</td></tr><tr><td data-bbox="407 479 629 586">所在地</td><td data-bbox="629 479 1887 586">・ 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-100-45 新横浜中央ビル</td></tr><tr><td data-bbox="407 586 629 686">事業内容</td><td data-bbox="629 586 1887 686">・ 電子デバイス製品の設計・開発及び販売</td></tr></tbody></table>	名称	・ 富士通エレクトロニクス株式会社 ※2020年12月、「加賀FEI株式会社」に商号変更	代表者	・ 代表取締役会長 塚本 勲（当社 代表取締役会長） ・ 代表取締役社長 荻原 淳二	所在地	・ 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-100-45 新横浜中央ビル	事業内容	・ 電子デバイス製品の設計・開発及び販売
名称	・ 富士通エレクトロニクス株式会社 ※2020年12月、「加賀FEI株式会社」に商号変更								
代表者	・ 代表取締役会長 塚本 勲（当社 代表取締役会長） ・ 代表取締役社長 荻原 淳二								
所在地	・ 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-100-45 新横浜中央ビル								
事業内容	・ 電子デバイス製品の設計・開発及び販売								
買収の経緯・スキーム	<p>2019年1月1日付で、富士通セミコンダクターより富士通エレクトロニクス株式70%を取得し子会社化。その後、段階的に株式取得し2022年1月に100%子会社化。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第一段階：2019年1月（70%）・ 第二段階：2020年12月（15%）・ 第三段階：2021年12月（15%）								
買収の狙い	<ul style="list-style-type: none">● 電子部品・半導体ビジネスのシェア拡大● EMSビジネスの事業規模拡大● 両社事業協業に伴う経営効率の更なる向上								

PMIの進捗状況：加賀FEI

<p>EMSの 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 車載機器メーカー、電機メーカーなど5社から開発・試作・量産を受注 84社/新規訪問 ➡ 40社/商談継続中（2021年3月期上期） <p><注目> 上半期の活動で既に昨年度並みの実績。初の海外量産案件も獲得。</p>	
<p>クロスセルの 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀電子が持つ有力商材を大手優良顧客へ売り込み強化 <p><注目> 情報機器、インフラ機器、家電など様々な分野で大型商談を展開中</p>	
<p>新規商材の 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体、電子部品、ユニットモジュールなど幅広い分野で商材・サービスを拡大 <p><注目> 新規取扱い商材79社（累計）、今期売上見込み147億円（前期104億円）</p>	
<p>営業拠点の 統廃合</p>	<p>国内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ FEI名古屋オフィスを加賀電子名古屋営業所に移転 [19年9月] ・ FEI広島営業所を閉所、加賀電子関西営業所へ統合 [19年12月] ・ FEI長岡営業所を閉所、加賀電子新潟営業所へ統合 [20年2月] ・ FEI大阪オフィスを加賀電子関西営業所へ移転 [20年12月]
	<p>海外</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加賀電子米国販社をFEI米国販社に統合 [21年春目途] ・ 加賀電子及びFEIの韓国販社についても見直し中 [21年春目途]

十和田パイオニアの買収について

被買収会社の概要	名称	・ 十和田パイオニア株式会社 ※2019年10月に「加賀EMS十和田株式会社」に商号変更
	代表者	・ 代表取締役社長 山本 憲明
	所在地	・ 青森県十和田市元町東一丁目15-1
	事業内容	・ 車載用電子機器、医療機器の基板実装および完成品組立て
買収の経緯・スキーム	2019年10月、パイオニア株式会社より十和田パイオニアの株式を取得し、完全子会社化	
買収の狙い	<ul style="list-style-type: none">● エレクトロニクス専門メーカーの製造子会社として同社が蓄積したモノ作りのノウハウ、および優秀な生産系人財の獲得● 国内での生産需要に対するキャパシティ増強、車載関連領域の強化● 生産設備設計、治具製作、品質保証体系など有形無形のリソース共有● これらを通じて、当社EMS事業の圧倒的競争優位性を確立する	

PMIの進捗状況：加賀EMS十和田

新規顧客の獲得 ①加賀電子との協業	車載	<ul style="list-style-type: none">・ 日系Tier1向け電装基板の量産開始 [20年7月～]・ 日系Tier1向け電装基板の量産受注 [21年11月～]
	OA機器	<ul style="list-style-type: none">・ 日系大手事務機メーカー向け電装基板の量産受注 [21年以降]
	電機	<ul style="list-style-type: none">・ 日系大手電機メーカーから「認定工場」資格を取得
新規顧客の獲得 ②独自開拓	医療機器	<ul style="list-style-type: none">・ 日系医療機器メーカー向けセンサの製造受託 [20年12月～]・ 日系医療機器メーカー向けユニットの製造受託 [22年5月～]
EMSマザー工場としての取り組み		<ul style="list-style-type: none">● 自社開発の生産IT化ツール（管理ソフト、設備）をグループ内生産拠点へ展開● 生産に関する標準化ノウハウの共有● 海外生産拠点への支援、海外赴任人材の展開● 品質管理、生産技術人材の育成加速● モノづくり視点でのIT化推進（品質管理、資材、工場総務、経理）

エクセルの買収について

被買収会社の概要	名称	・ エクセル株式会社
	代表者	・ 代表取締役会長兼社長 筧 新太郎（当社 専務取締役）
	所在地	・ 東京都港区西新橋3-12-10
	事業内容	・ 液晶等表示デバイス、集積回路、半導体素子、その他の電子部品および電子機器の販売ならびに輸出入
買収の経緯・スキーム	<ul style="list-style-type: none">・ 2020年4月1日付で、CI11によるエクセルの完全子会社化後、資産を分割。・ 同日、同社の一部資産とともに事業を譲受し、加賀電子の100%子会社化。	
買収の狙い	<ul style="list-style-type: none">● 電子部品ビジネスのシェア拡大：液晶デバイス商材、中国顧客基盤を共有● 新規事業の獲得：EV関連など有望テーマの早期事業化を支援● 経営効率の向上：販売関連組織、管理間接部門を最適化	

PMIの進捗状況：エクセル

<p>新規事業の 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● カルテック社製光触媒除菌脱臭機*の拡販 ● 中国アルファバス社製EVバスの拡販 <p><注目>加賀電子+エクセルが有するネットワークを活用し、本格展開中 ※ EVバスは、上期2台受注確定</p>	
<p>クロスセルの 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 加賀電子が持つ商材を大手顧客等へ売り込み強化 <p><注目>エクセル社内に「グループシナジー推進室」を新設し連携強化 更に、「特販営業部」を新設し、電子部品以外の商材の取り扱い拡充中</p>	
<p>営業拠点の 統廃合</p>	<p>国内</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXLがADSを吸収合併 [20年10月] ・ EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年3月目途] ・ EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年4月目途] ・ その他の国内拠点についても見直し検討中
	<p>海外</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXLシンガポールは営業終了し、その機能を加賀シンガポールへ移管 [20年12月] ・ ADS香港は営業終了し、その機能をEXL香港へ移管[20年12月] ・ その他の海外拠点についても見直し検討中

※略称：エクセル→EXL Advanced Display Solutions（子会社）→ADS

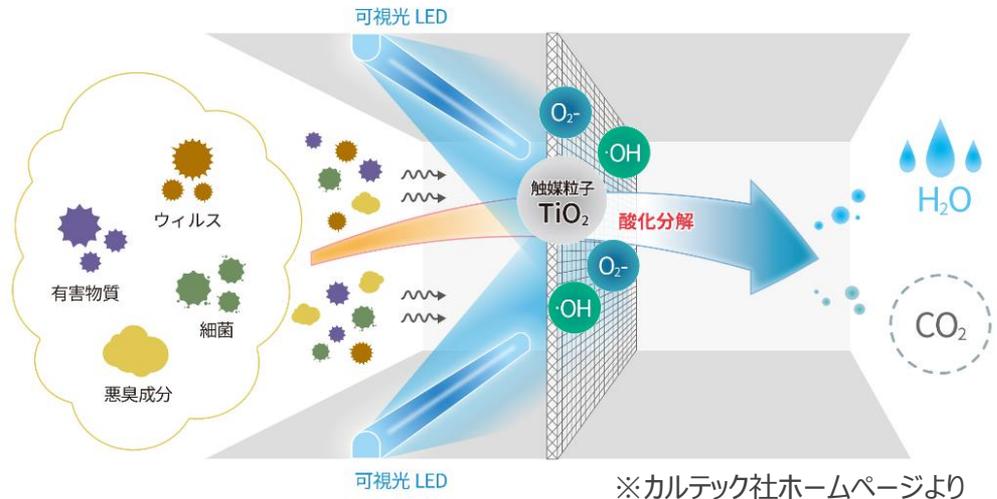
カルテック社製光触媒除菌脱臭機について



壁掛けタイプ



首掛けタイプ



カルテック社について

- 元シャープの技術者が2018年に立ち上げたベンチャー企業
- 独自開発の光触媒技術を搭載した除菌脱臭機を手がける
- エクセルが同社に出資している関係を発展させて、当社グループ全体で販売及び部品調達において協業することに基本合意

カルテック社の光触媒技術について

- 酸化チタンを独自技術でコーティングした光触媒フィルタに可視光LEDを照射することで、吸着したウイルスや細菌、有害物質等を水と二酸化炭素に分解する
- 理化学研究所/日本大学医学部が共同で機能評価した結果、新型コロナウイルスを20分で99.9%不活化することが実証された

旭東電気のグループ会社化について

旭東電気の概要	名称	・ 旭東電気株式会社
	代表者	・ 代表取締役会長 俊成 伴伯 (当社 取締役EMS事業部長) ・ 代表取締役社長 澤田 康博 (旧旭東電気 代表取締役社長)
	所在地	・ 大阪市旭区新森6丁目2-1
	事業内容	・ 安全ブレーカー、漏電遮断器、直流開閉器製造事業 ・ 電子機器の受託製造 (EMS) 事業、等
買収の経緯・スキーム	・ 2020年4月28日：旭東電気、大阪地方裁判所に民事再生手続きを申し立て。 ・ 2020年8月31日：旭東電気と民事再生支援に関するスポンサー契約締結。 ・ 2020年11月2日：旭東電気を会社分割し、新たに設立された旭東電気の株式を取得、同日付で100%子会社化。	
買収の狙い	● 当社の車載向けEMS顧客に対する製品供給継続 ● 製造業の国内生産回帰に対応した西日本地区におけるEMS拠点構築 ● 同社が持つ“オンリーワン製品*”の競争力強化によるグループ収益貢献 * 漏電保護プラグ、漏電保護リレー、小型漏電遮断器、直流開閉器等で国内シェア75～100%保有	

業界内ポジショニング

加賀FEI（旧：富士通エレクトロニクス）連結化の通年寄与で、**2020年3月期は業界第2位へ**

(単位：億円)

2019年3月期実績

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,242
2	丸文	3,267
3	加賀電子	2,928
4	リョーサン	2,497
5	シークス	2,428
6	菱電商事	2,403
7	トーメンデバイス	2,176
8	UKCホールディングス	2,058
9	エレマテック	1,834
10	立花エレテック	1,829

2020年3月期実績

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,211
2	加賀電子	4,436
3	レスター	3,795
4	丸文	2,875
5	トーメンデバイス	2,603
6	菱電商事	2,300
7	リョーサン	2,272
8	シークス	2,230
9	エレマテック	1,756
10	立花エレテック	1,705

注：調査対象は上場企業

シークスは12月決算、他社は3月期決算

レスターは、UKCホールディングスとバイテックホールディングスの経営統合により2019年4月1日より発足

2020年3月期実績は、2020年5月25日現在各社発表値、シークスは2020年12月期実績数値

データの出所：当社調べ

加賀電子のサステナビリティ

サステナビリティへの取り組み

新規事業

■ ヘリコプタービジネス

官公庁向け防災用途



■ 医療機器ビジネス

CTスキャナー



外部協業

■ ベンチャー投資

社会課題解決



■ 産学連携

省エネデバイス開発



持続可能な
社会を目指す

従来事業

■ 部品ビジネス

SDGs用途開拓奨励



■ EMSビジネス

SDGs用途開拓奨励



■ 完成品ビジネス

教育機関向けPC販売



■ 再生ビジネス

PCリユース・リサイクル



サステナビリティへの取り組み

医療機器 × QOL



移動式CTスキャナー



乳がんCTスキャナー

3 すべての人に
健康と福祉を



障がい者支援 × ウェアラブル端末



オンテナ (Antenna)



4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



ケアサポートシステム

高齢化社会 × 見守りシステム



グリーンキャパシタ

ブレイクスルー × 次世代蓄電デバイス

加賀電子のCSR活動

JLPGA新人戦「加賀電子カップ」

本大会は、プロテストに合格した新人選手のみが出場する、トッププロになるための登竜門的な大会。当社は1996年以来、特別協賛を続けています。歴代優勝者としては、不動祐理、横峯さくら、上田桃子、などトッププロを輩出しています。



社会貢献活動

当社グループでは、国内外の各拠点においても、社会貢献活動を実施しています。国内子会社では近隣観光地や工場周辺における、定期的な清掃活動等、それぞれの地域に根ざした取り組みを進めています。



金沢マラソン

2015年の北陸新幹線開業に合わせて開催された市民参加型のマラソン大会。金沢は創業者の出身地で、社名の由来となる縁の深い土地でもあることから、当社は初回より協賛しています。



2021年3月期 第3四半期決算概要

2021年3月期第3四半期 サマリー

2021年3月期 第3四半期実績

- 売上高は、在宅需要を取り込みPC・PC周辺機器の販売が好調も、電子部品の大口取引先との商権・商流の変更による影響を受けて減収。
- 販管費の抑制・縮減に努め、営業利益・経常利益とも前年並みに回復。
- 四半期純利益は、企業買収に伴い「負ののれん益」計上し、大幅増益。
- 直近3カ月の当社グループ業績は、概ねコロナ前に収益水準に回復。

主なセグメントの 概況

- | | |
|------|--|
| 電子部品 | <ul style="list-style-type: none">● 部品販売ビジネスは、加賀FEI^(注)の米Cypress社代理店解消等による売上減を新規連結で補いきれず減収減益。● EMSビジネスは、コロナ影響から持ち直し、概ねコロナ前の収益水準に回復。 |
| 情報機器 | <ul style="list-style-type: none">● コロナ禍の中、テレワーク、オンライン授業の拡大により、PC・PC周辺機器およびセキュリティソフトなどの販売が伸長。 |

2021年3月期 業績予想

- 社内計画に対して上振れを持続。3Q上振れ分を前回予想(2020年11月5日公表)に上乘せし、期中二回目の上方修正。

株主還元

- 期末配当は、通期業績の上方修正を踏まえ、期初予想の1株当たり30円に、特別配当金10円を加え1株当たり40円に増額。
- 中間配当30円と合わせた年間配当は、前年同額の1株当たり70円。

2021年3月期第3四半期 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2020/3期 3Q実績		2021/3期 3Q実績		前年比	2021/3期 業績予想		進捗率
売上高	338,801		294,266		▲13.1%	410,000		71.8%
売上総利益	35,245	10.4%	33,646	11.4%	▲4.5%	—	—	—
販売費及び一般管理費	27,513	8.1%	26,129	8.9%	▲5.0%	—	—	—
営業利益	7,732	2.3%	7,517	2.6%	▲2.8%	7,500	1.8%	100.2%
経常利益	7,975	2.4%	7,230	2.5%	▲9.3%	7,500	1.8%	96.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,924	1.5%	12,728	4.3%	158.5%	10,000	2.4%	127.3%
EPS	179.43		463.49			364.18		
為替レート	米ドル	108.67	106.11			—		

2021年3月期第3四半期 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 3Q実績		2021/3期 3Q実績		前年比
電子部品	売上高	293,527		246,704		▲16.0%
	セグメント利益	6,418	2.2%	5,418	2.2%	▲15.6%
情報機器	売上高	29,789		33,937		13.9%
	セグメント利益	854	2.9%	1,753	5.2%	105.2%
ソフトウェア	売上高	1,788		2,004		12.1%
	セグメント利益	9	0.5%	106	5.3%	999.3%
その他	売上高	13,696		11,619		▲15.2%
	セグメント利益	364	2.7%	149	1.3%	▲59.1%
合計	売上高	338,801		294,266		▲13.1%
	セグメント利益	7,732	2.3%	7,517	2.6%	▲2.8%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2021年3月期第3四半期 M&Aの影響

(単位：百万円)

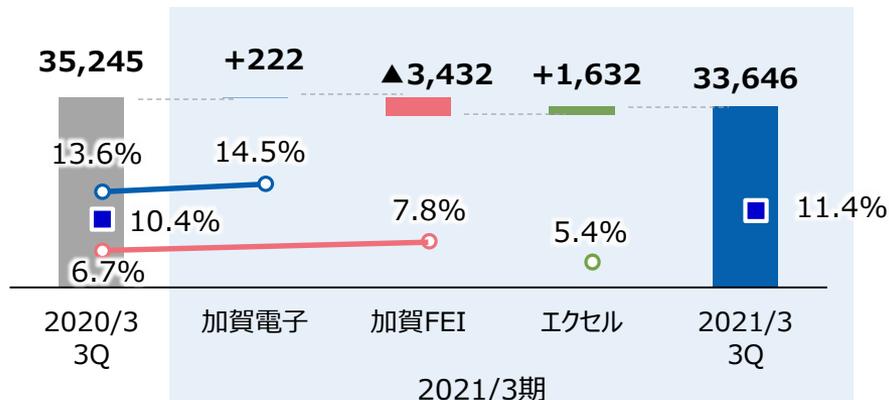
売上高

加賀電子はコロナ影響により減収、加賀FEIは大口商権喪失により大幅減。エクセルは1Qより連結化



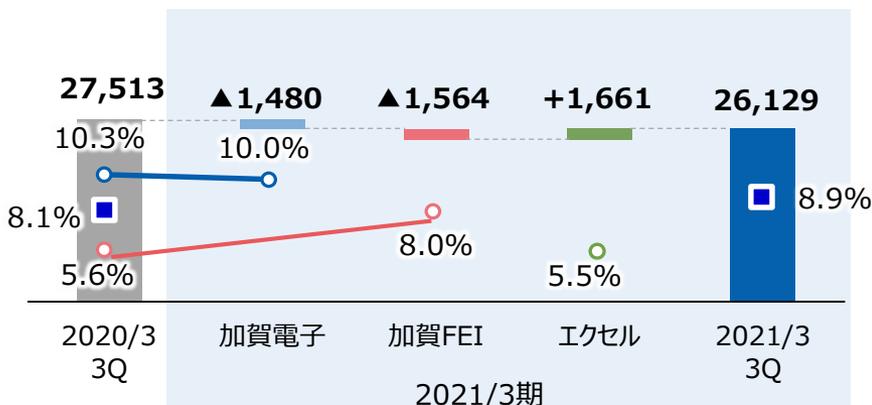
売上総利益 / 売上総利益率

加賀FEIは減益となるも、加賀電子、加賀FEIともに粗利率改善



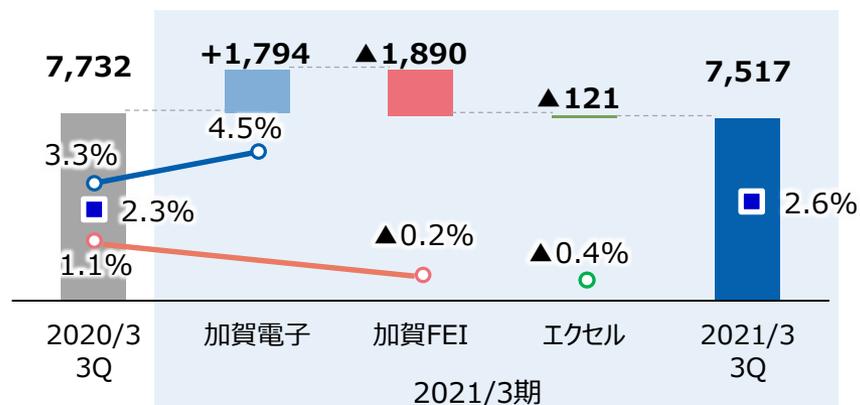
販管費 / 販管費率

加賀電子、加賀FEIとも経費削減に努め、新規連結影響を吸収



営業利益 / 営業利益率

コロナ禍の中、加賀電子は減収も増益確保、利益率も大幅改善



2021年3月期第3四半期 会社別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 3Q実績		2021/3期 3Q実績		前年比
加賀電子	売上高	180,118		171,474		▲4.8%
	売上総利益	24,562	13.6%	24,784	14.5%	0.9%
	営業利益	5,984	3.3%	7,778	4.5%	30.0%
加賀FEI	売上高	158,682		92,420		▲41.8%
	売上総利益	10,675	6.7%	7,243	7.8%	▲32.1%
	営業利益	1,747	1.1%	▲143	▲0.2%	-
エクセル	売上高	-		30,371		-
	売上総利益	-	-	1,632	5.4%	-
	営業利益	-	-	▲121	▲0.4%	-
合計	売上高	338,801		294,266		▲13.1%
	売上総利益	35,245	10.4%	33,646	11.4%	▲4.5%
	営業利益	7,732	2.3%	7,517	2.6%	▲2.8%

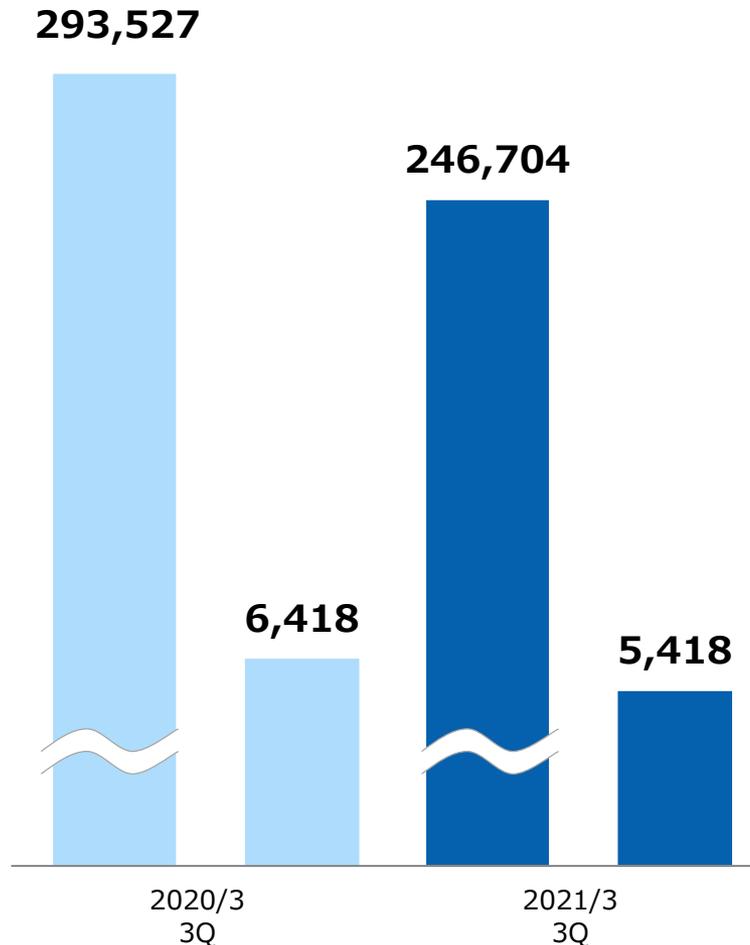
(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

2021年3月期第3四半期：電子部品事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ ▲46,823百万円 16.0%減
- セグメント利益 ▶ ▲1,000百万円 15.6%減

・部品販売ビジネスは、エクセルのグループ化による増収効果あるも、加賀FEIにおけるCypress社からの代理店契約解消などの影響により減収。

・EMSビジネスは、新型コロナウイルス感染拡大により、海外工場にて一部操業休止や生産調整の影響を受けた1Qを底に、経済活動の再開を背景に持ち直す。車載、産業機器向けを中心にコロナ前の水準に回復。

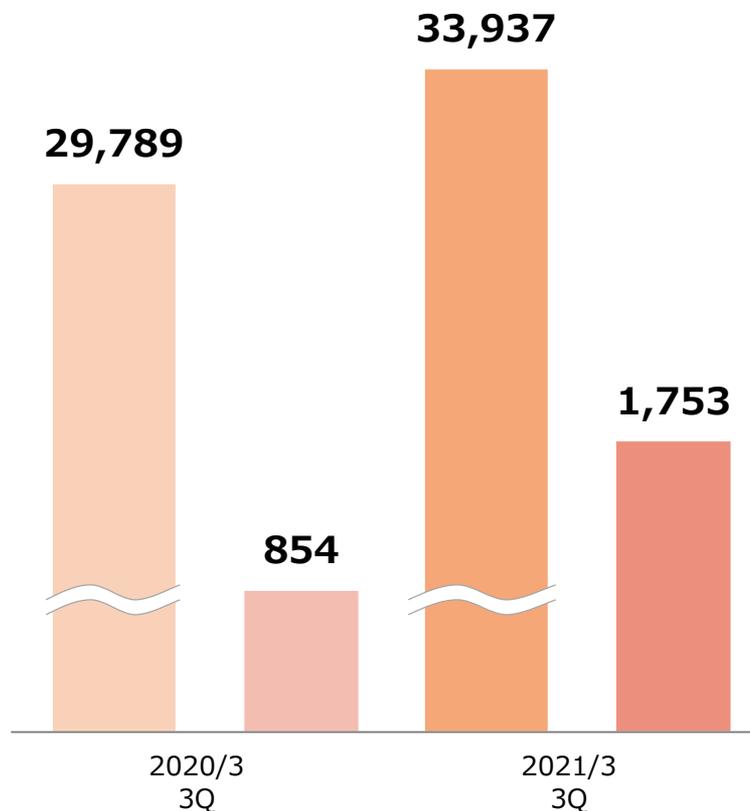


2021年3月期第3四半期：情報機器事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ **+4,148百万円 13.9%増**
- セグメント利益 ▶ **+898百万円 105.2%増**

・テレワーク、オンライン授業の増加により、パソコン、PC周辺機器およびセキュリティソフトの販売が家電量販店、学校・教育機関向けに伸長。

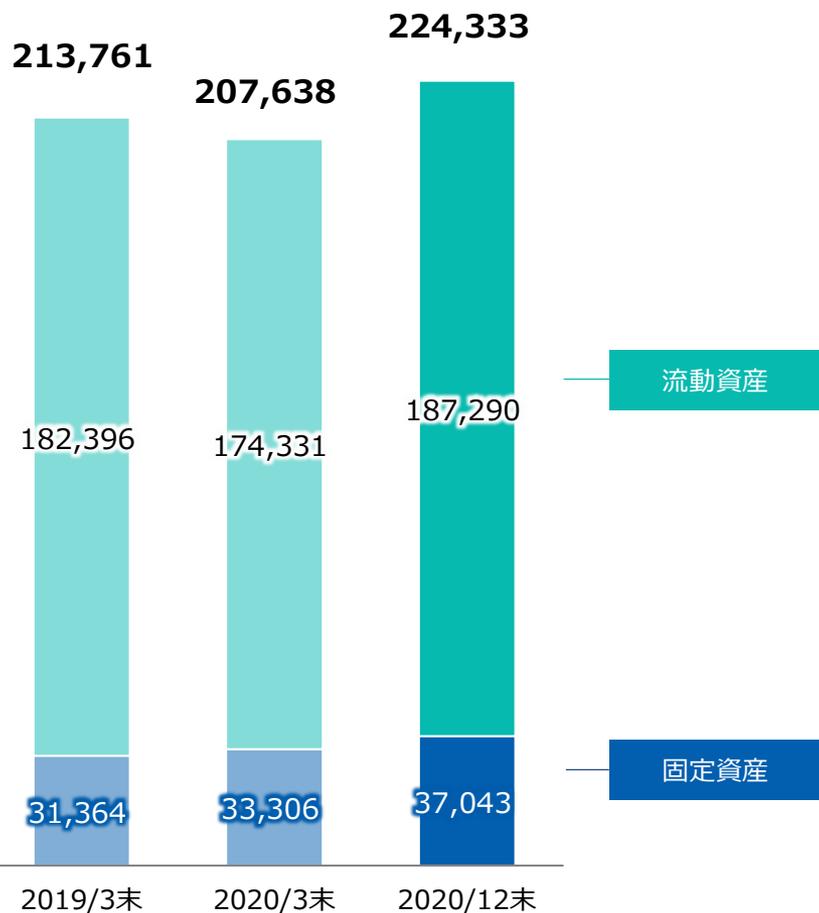
・住宅向け家電販売ビジネスは低調続くものの、商業施設向けLED照明設置ビジネスが堅調。



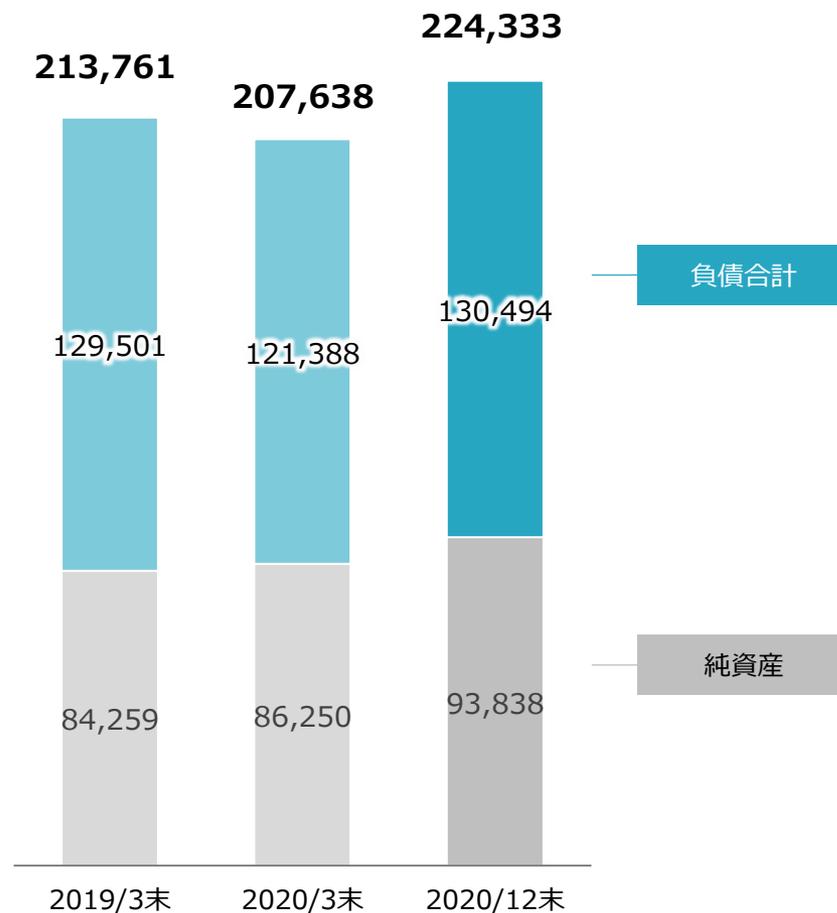
貸借対照表主要項目

(単位：百万円)

資産



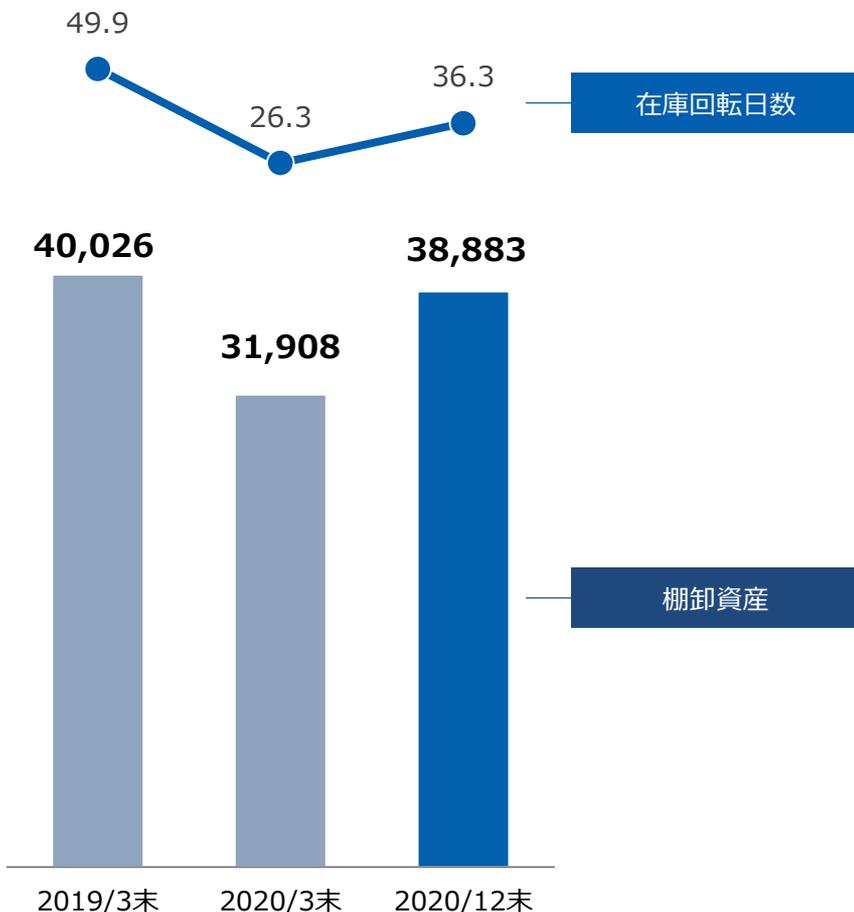
負債・純資産



貸借対照表主要項目

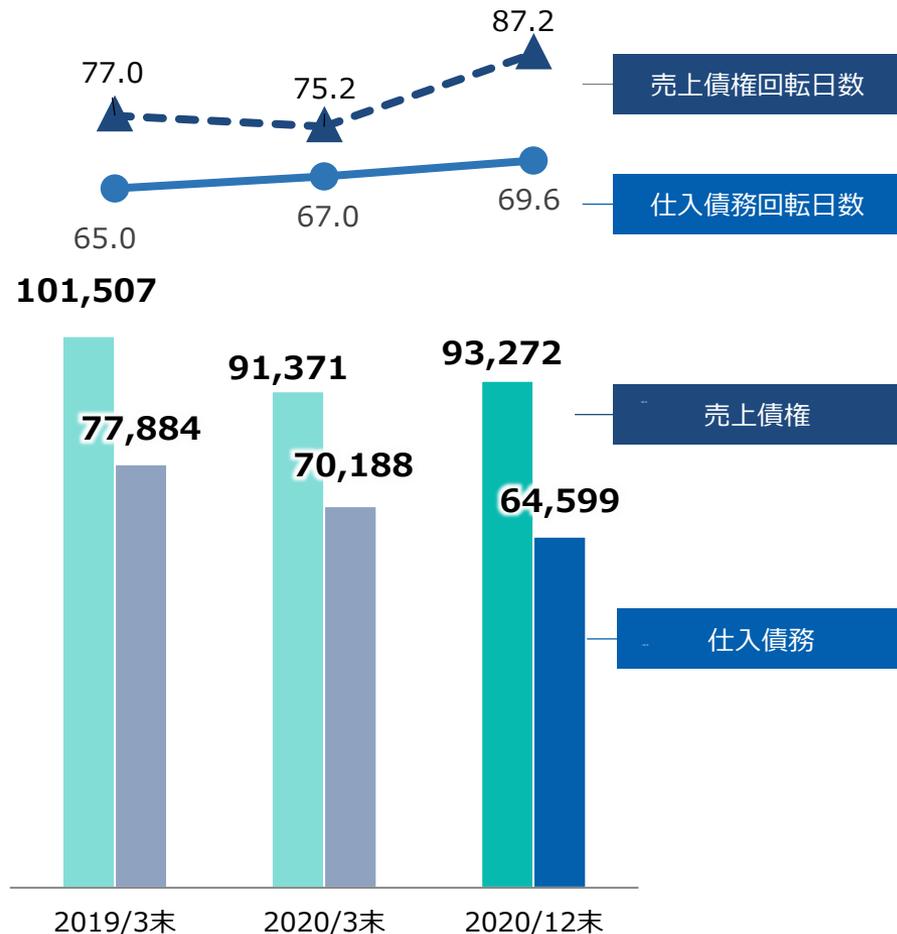
(単位：百万円、日)

棚卸資産



注：在庫回転日数 = 棚卸資産 ÷ 売上高 × 365 (12末は275)

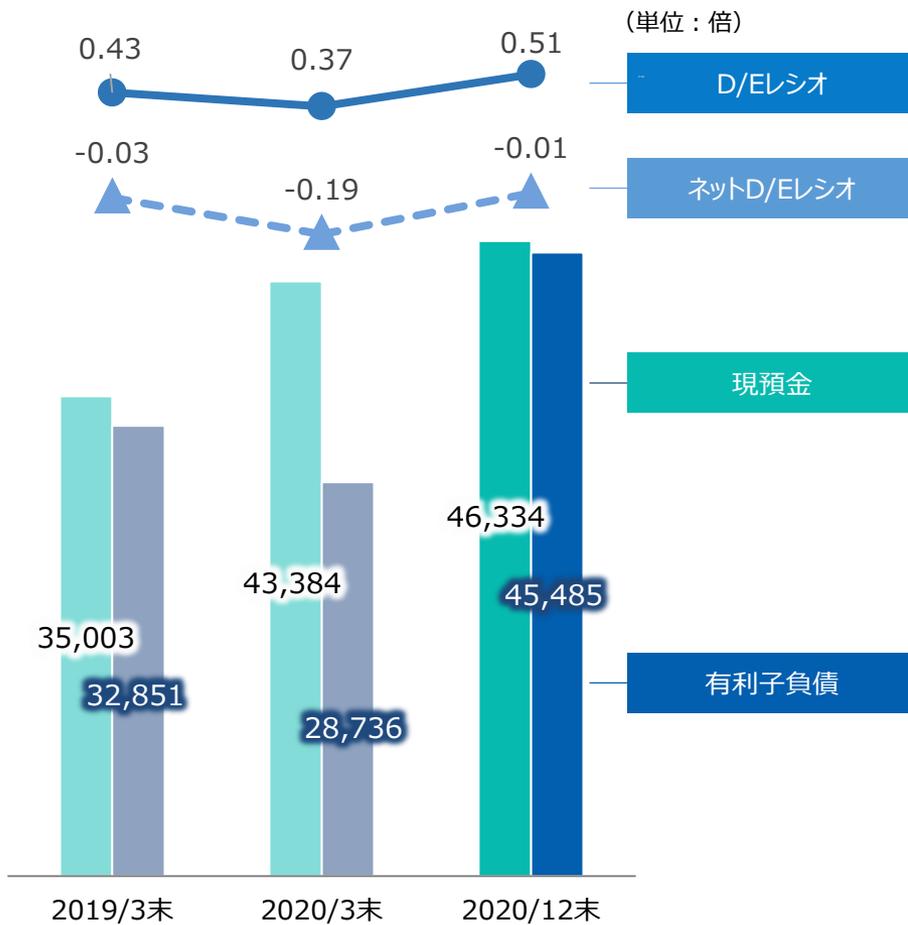
売上債権・仕入債務



注：受取手形及び売掛金については、電子記録債権を含めた金額となっております。
 支払手形及び買掛金については、電子記録債務を含めた金額となっております。
 売上債権回転日数 = 受取手形及び売掛金 ÷ 売上高 × 365 (12末は275)
 仕入債務回転日数 = 支払手形及び買掛金 ÷ 仕入高 × 365 (12末は275) 51

貸借対照表主要項目

現預金・有利子負債



注：D/Eレシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本
 ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) ÷ 自己資本

2021年3月期 通期業績予想

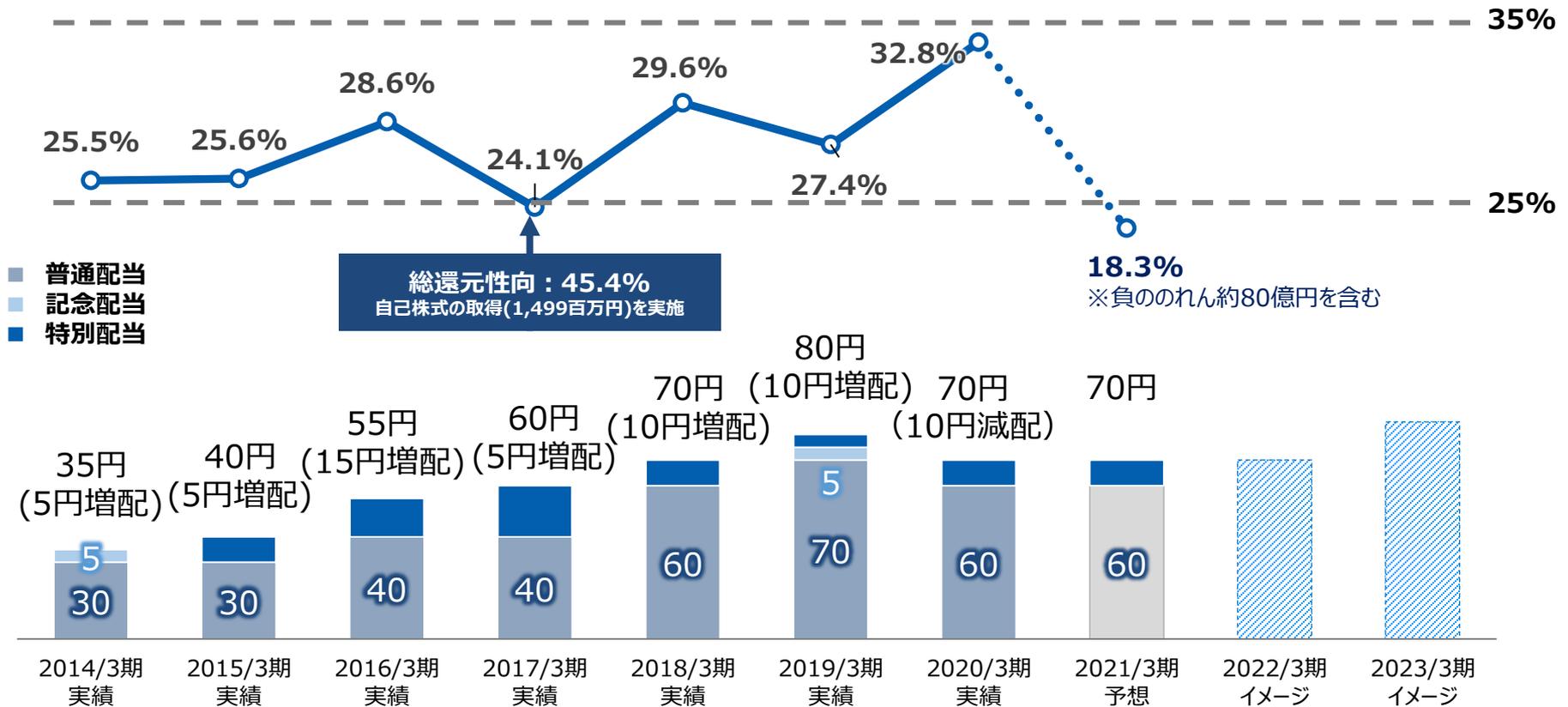
(単位：百万円)

	2020/3期 実績		2021/3期 前回予想 (2020年11月5日発表)		2021/3期 今回修正予想		前回予想 との差異	前年比
売上高	443,615		410,000		415,000		1.2%	▲6.5%
営業利益	10,014	2.3%	7,500	1.8%	9,000	2.2%	20.0%	▲10.1%
経常利益	10,137	2.3%	7,500	1.8%	8,500	2.0%	13.3%	▲16.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,852	1.3%	10,000	2.4%	10,500	2.5%	5.0%	79.4%
EPS	213.21		364.18		382.30		—	—
ROE	7.6		11.8		12.7		—	—

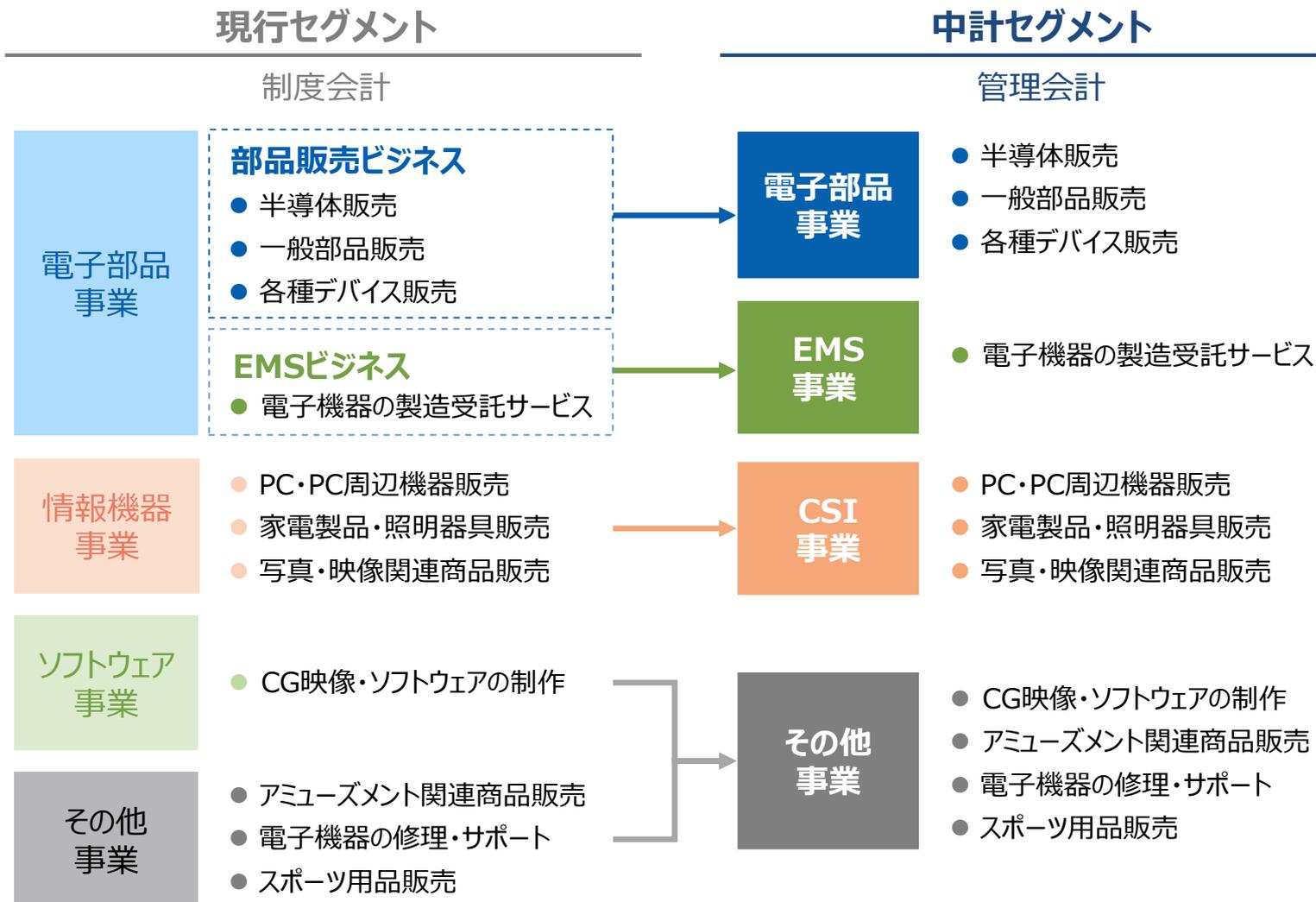
株主還元

利益配分に関する基本方針

- 連結配当性向25～35%を確保しつつ、**安定的な配当**を実施する。
- 将来成長に資する**事業投資・設備投資、M&A**等に活用する。
- **自己株式の取得**は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する。



制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う

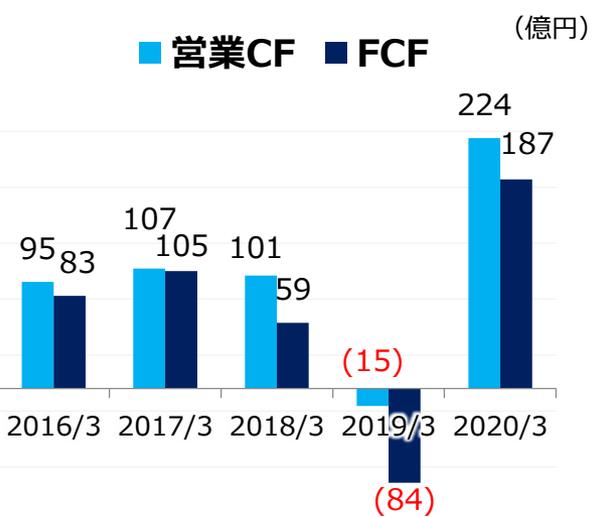
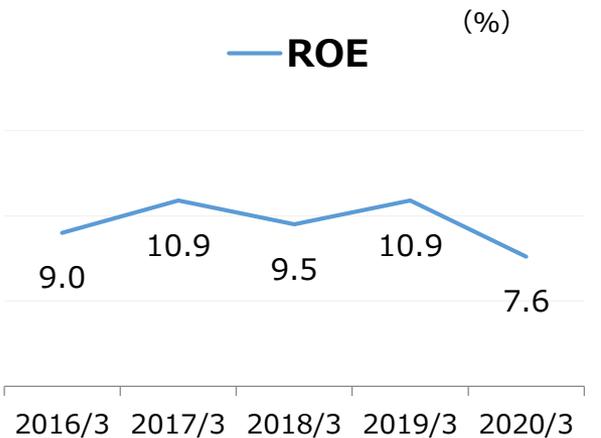
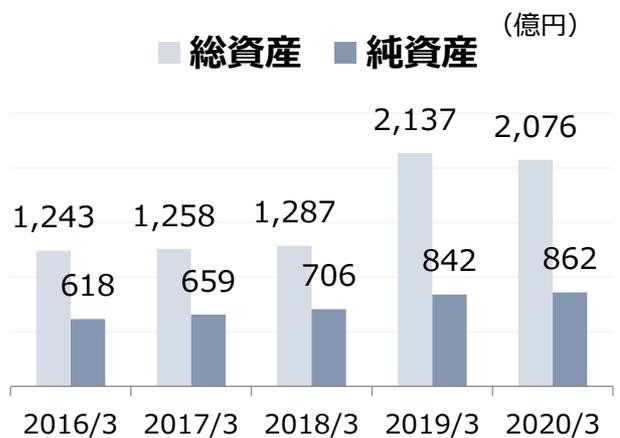
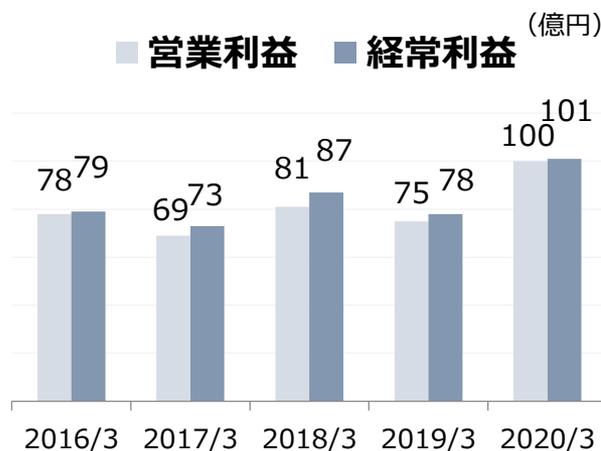
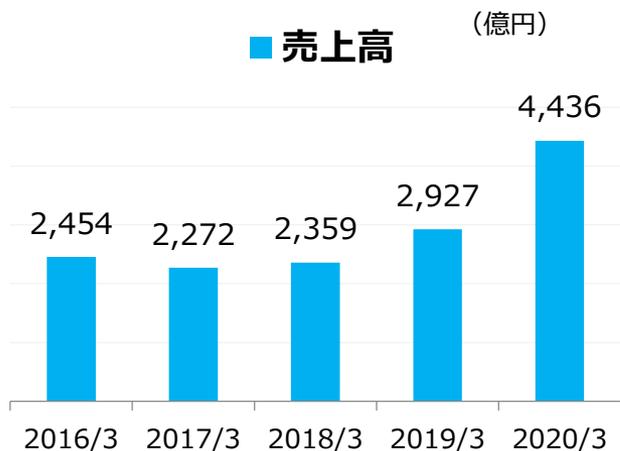


(単位：百万円)

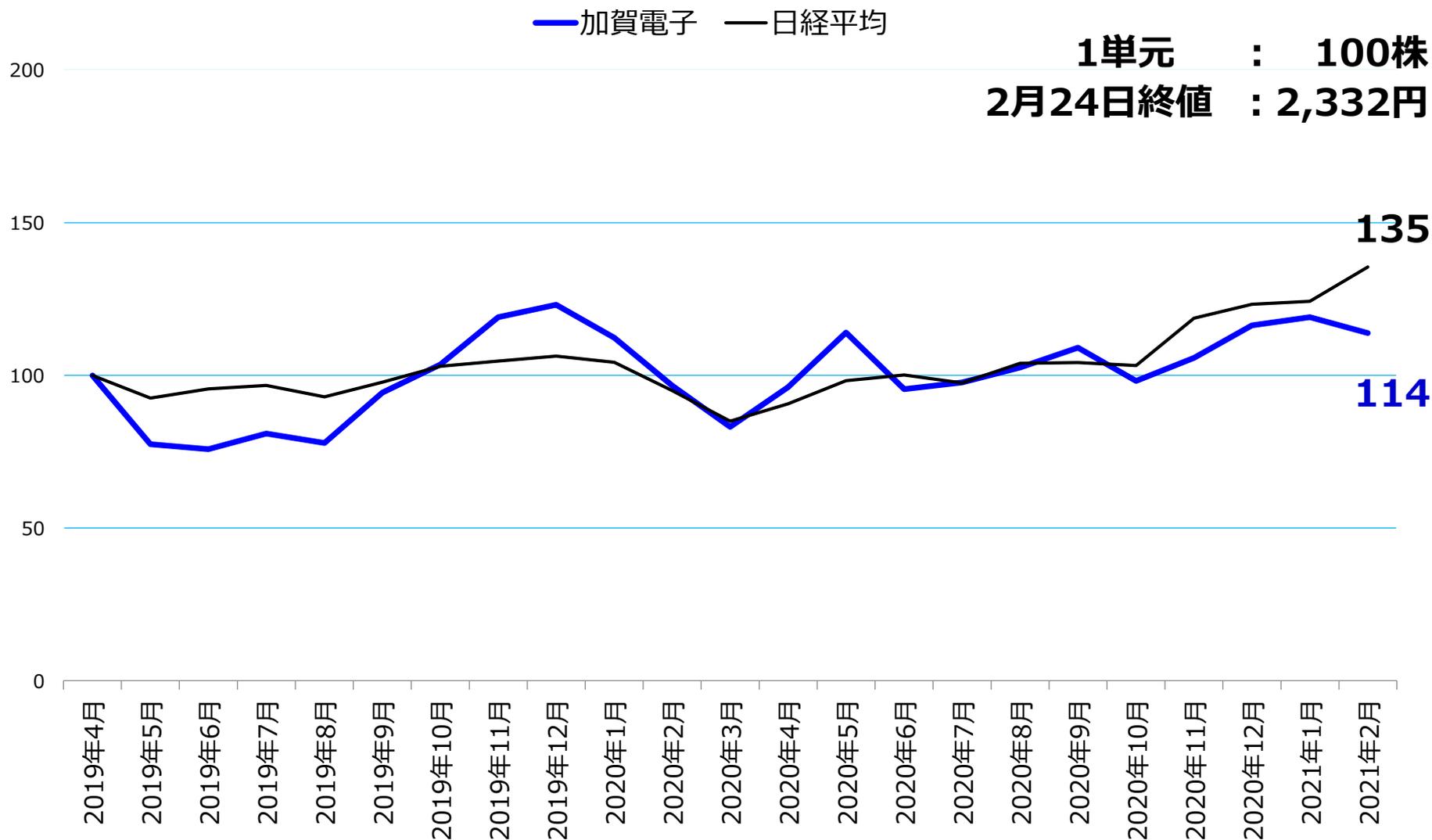
		2020/3期 3Q実績		2021/3期 3Q実績		前年比
電子部品	売上高	228,684		181,913		▲20.5%
	セグメント利益	2,938	1.3%	1,657	0.9%	▲43.6%
EMS	売上高	70,721		70,216		▲0.7%
	セグメント利益	3,455	4.9%	3,890	5.5%	12.6%
CSI	売上高	29,789		33,937		13.9%
	セグメント利益	854	2.9%	1,753	5.2%	105.2%
その他	売上高	9,605		8,199		▲14.6%
	セグメント利益	398	4.1%	126	1.5%	▲68.2%
合計	売上高	338,801		294,266		▲13.1%
	セグメント利益	7,732	2.3%	7,517	2.6%	▲2.8%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

業績ハイライト：過去5年



株価推移





.....

.....

.....

.....

.....

.....



.....

.....

.....

.....

.....

.....



.....

.....

.....

.....

.....

.....

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入